

市史の小徑

35

水口曳山祭と囃子

―江戸時代の賑わいを今に伝える―

水口神社の祭礼「水口曳山祭」は、甲賀地域唯一の都市型祭礼であり、毎年多くの観光客で賑わいます。ここでは、水口曳山祭の歴史をご紹介します。

江戸時代は各地の町場で山・鉦・屋台の出る祭礼が成立しましたが、水口では今から300年ほど前の宝永年間に、作り物や仮装、踊りなどを中心とした練り物の行列が祭りに登場。その後、紆余曲折をへて、享保の末年には9基の「山鉦」が巡行し、やがて社殿状の外観をもった曳山に発展し、上部にダシを飾り、賑やかに囃子を奏でて巡行する姿へと整備されていきました。

豪華な曳山を見所の第一とすれば、聞き所の第一は曳山の巡行



を囃す水口囃子でしょう。「東の秩父、西の水口」といわれるように、日本を代表する祭り囃子として、全国各地に愛好者を持つほどになりました。その特徴は曲名やノリのよい曲調に「天下祭」を囃した江戸祭り囃子の影響がうかがえることで、地元では江戸詰めの藩士が神田囃子を伝えたとする由緒が語られてきました。録音装置のない時代の伝習には人を介するほかにないことを考えれば、傾聴すべき説といえるでしょう。

東海道の宿場町としての繁栄と、小なりとはいえ城下町の心意気を今に伝える祭り囃子。本年刊行の第六巻でも詳しく解説されます。

【市史販売所】

【水口】TUTAYAさんぽーど・ハタヤ書店・山川書店・山田書店・水口歴史民俗資料館【土山】ウエノ・新名神土山サービスエリア案内所・土山歴史民俗資料館【甲賀】かふか生涯学習館【甲南】WING甲南店・市史編さん室【信楽】大宝堂谷川書店・信楽中央公民館

問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室

甲南庁舎3階

☎ 066-80075
☎ 066-8216

みんなの窓

新学期、小・中学校をはじめ義務教育の学校では、教科書が配布されます。子ども達は、新しくきれいな教科書を前に、期待をふくらませていることなのでしょう。今では無償で配布されている教科書ですが40数年前までは、教科書は新学期を迎える前に各家庭でそろえることになっていました。今の教科書無償制度はどのようにして始まったのでしょうか。

実は、この制度は、被差別部落の人たちが中心となって取り組まれた教科書無償を求める運動から始まりました。

1961年(昭和36年)、高知のある被差別部落では、仕事に恵まれず、母親たちの多くは、失業者対策事業に出て働いていました。親たちは、毎年3月を迎えるのが辛かったそうです。なぜなら、子どもたちに教科書を用意してやらなくてはならないからです。教科書代を捻出することは、かなりの負担になっていました。

その頃、母親たちは、学校の教師たちと差別についての学習会をもっていました。その中で、憲法26条に「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教

「教科書無償制度」に学ぶ



育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする」とあることを学びます。そこで母親たちは「教科書をタダにする会」を結成し、教科書の無償化を訴えました。その活動は全国へ広がっていきます。この運動には、被差別部落の人々をはじめ、運動を支持する人々の熱い想いが込められていました。

やがて、国会でも大きな問題として取り上げられ、1963年(昭和38年)2月に「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」が成立しました。この運動が基礎となり、教科書無償が全国的に実現し、同和問題の解決に向けた取り組みの成果が国民全体のものとなっていったのです。

今では、ごく当たり前のように配布されている教科書ですが、そこには、一生懸命に運動した人がいたということを忘れてはなりません。大切にしたいものです。

(参考)全国解放教育研究改編 『部落解放教育資料集成10巻』

問い合わせ 人権推進課 ☎ 65-0693 ☎ 63-4582